

自販機

フォト劇場 (55)

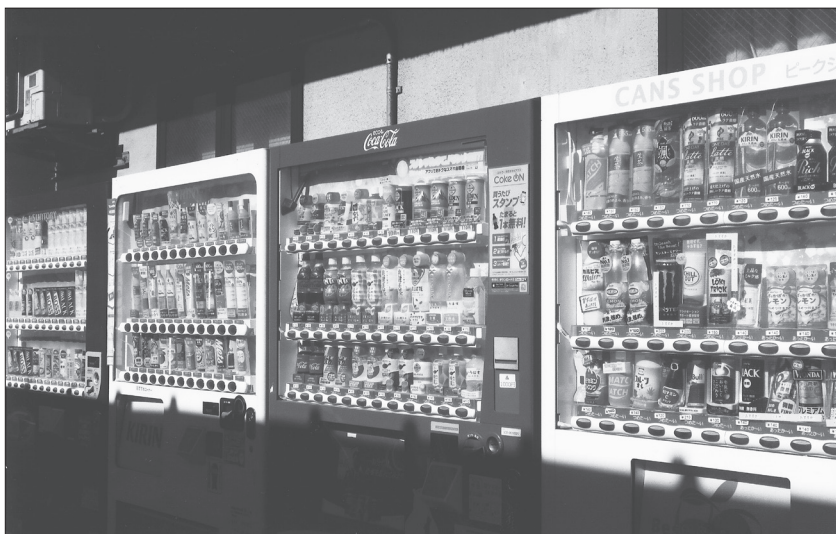
写真が生ものがたり
がむもの

ひたすらに百夜を覚めて客を待つ街路の自販機つ
らくあらぬか
瓢子朝子

いつも自販機で求めたのはポカリスエット、
その中へ持参の塩4グラムを入れて飲む。そ
の行為を友は見つて「何を入れているの」と問わ
れ、ナトリウム低下症を告げる。今は、相応
の薬も投与されて元気です。

バスがくる時にかぎって当たり出てもう一本をこえ
らぶ自販機
谷 真樹

幸運やチャンスって準備万端の時には訪れな
い。なぜこんな時に？って状況でやって来て
すんなり喜べないまま、よく考えられずに受
け取ってしまう。それもまた人生のドラマな
のだろう。



写真・木畑紀子

缶ジュースひとつ貰ふを楽しみに留守居せし子は
いま孫を持つ
千村ユミ子

最初の子がまだ歩けなかった頃、夫は結核で療養所にいた。義姉に子を預けて見舞の帰り、缶ジュースを一本買って帰るのを子は楽しみに待った。夫は回復して定年まで勤め、八十五歳で逝く。今年三回忌。

自販機の返却口に釣銭を探りゐる古い 見ぬふりに過ぐ
播田小弓

自販機の返却口に手を入れて、取り忘れの釣銭を探っている初老の男性。最近あまり見掛けなくなつた光景に出会した私は、飽食の世に未だある現実にどきりと胸を突かれて、思わず足早にその場を通り過ぎました。